

知事の「(ウクライナ大統領の)ゼレンスキーです」発言に対する抗議決議

今年2月24日、ロシアは特別軍事作戦の名のもと、ウクライナへの本格的な軍事侵攻を開始。民間人に死傷者を出す攻撃を行い、病院、学校、住宅などの市民の建物に被害を与えるなど、この間、ロシア軍はウクライナ東部を中心に攻撃を続け、民間人の死者はこれまでに国連機関が把握しているだけで約4千人に達している。

欧州連合（EU）とその加盟国は、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻は国際秩序全体の根幹を揺るがす事態だという認識で一致。G7会合では国際社会が結束・連携して強力な制裁とウクライナ支援を継続していくことを確認。力による一方的な現状変更は世界のいかなる地域でも認められないという認識で一致した。

ロシアによるウクライナ侵攻から既に3カ月余が経過。国連難民高等弁務官事務所によると、隣国ポーランドをはじめ国外に避難しているウクライナ人は680万人を超える。国内でも既に千人を超える避難民を受け入れ、県内でも数組の避難民を受け入れている。避難民の多くは、夫や高齢の両親を残し、幼児を連れて着のみ着のまま、避難先に身を寄せる若い母親も少なくない。

そんな中、先月25日、米軍基地問題について専門家の意見を聞く有識者会議の際、知事は席に着くなり、ウクライナ大統領の名前を持ち出して「ゼレンスキーです。よろしくお願いします」と、話を切り出した。その場で「冗談です」と打ち消したものの、発言はネットを通して拡散し、全国版のテレビ番組でも放映された。

先月30日、知事はウクライナ駐日大使に対し電話で「軽率のそしりを免れない」と謝罪したものの、平和な日常はずたずたに引き裂かれ、今なお戦闘終結の見通しが立たないウクライナが置かれている厳しい状況を考えれば、県民を代表する知事としての節度を越えた、誤解を招きかねない失言であり看過できない。

こうした知事の発言に対し浦添市議会は厳しく抗議する。

以上、決議する。

令和4年6月7日

沖縄県浦添市議会

宛先

沖縄県知事